



第452号 **公益社団法人  
徳島県環境技術センター**

徳島市津田海岸町2-33  
電話 (088) 636-1234(代)  
FAX (088) 636-1122  
発行責任者 大坂 利弘  
編集者 原岡 艶甲

発行

## 浄化槽の日の記念行事

### 第31回 全国浄化槽大会開催

平成29年10月2日、東京飯田橋のホテルグランドパレスで、第31回全国浄化槽大会が開催された。

これは、浄化槽の日を記念して、毎年、浄化槽関係19団体で構成する実行委員会が開催している事業であり、当日は関係者約800人が参加、盛大に開催された。

まず最初に「浄化槽の日」実行委員会を代表して、(一社)全国浄化槽団体連合会の佐藤佑会長が本日の大会を契機として浄化槽の普及促進へ関係者が連携して努力していければと開会の挨拶をした後、来賓が祝辞を述べ、浄化槽適正整備推進決議の採択が行われた。

その後、浄化槽に関する功労者の表彰が行われ、環境大臣表彰27名、国土交通省土地・建設産業局長表彰6名、国土交通省住宅局長表彰2名、環境省環境再生・資源循環局長20名が表彰され、徳島県では、県環境技術センターの川人専務理事が環境大臣表彰を受賞した。

また、「浄化槽の日」の標語は、最優秀賞に井上靖氏の「次世代へ 水の架け橋 浄化槽」が選ばれ、他5名が優秀賞に輝いた。式典終了後は、元京都府綾部市長の四方八洲男氏が「小さいことはいいことだー合併処理浄化槽のすすめ」と題して講演を行った。

四方前市長は、浄化槽を選択した理由とそれに対する市民や議会の反応に触れ、汚水処理100%を目指すには、役所や住民に向け関係者が連携してキャンペーンを行う必要があると参加者に呼びかけた。

その後行われた懇親会には、中川雅治環境大臣、石井啓一国土交通大臣を始めとする多くの国会議員が駆けつけ、口々に「これからは浄化槽の時代、環境と財政とともに優しく地震に強い点をさらにアピールし、国でも積極的に推進したい。」と挨拶していた。



### 第31回 全国浄化槽技術研究集会を開催

(公財)日本環境整備教育センターが主催する第31回全国浄化槽技術研究集会が10月10・11日、岡山市のホテルグランドヴィア岡山で盛大に開催された。2日間で全国から延べ1,420人が参加し、県環境技術センターからは、大坂会長をはじめとする理事8名と検査員5名が参加した。



10日は、式典から始まり、廣瀬理事長は『当センターは創立以来、浄化槽に関する研究、技術者の養成、普及啓発に努めてきた。浄化槽の普及・発展に引き続き皆様のご理解とご支援を頂きたい』と挨拶した。

次いで岡山県知事から来賓の挨拶があり、その後には浄化槽功労者の表彰が行われた。

式典後は、特別講演が行われ、北海道大学の眞柄研究員が『し尿の処分から処理、そして共生へ』のテーマで日本におけるし尿処理の変遷と今後の汚水処理のあり方について講演を行った。また、『処理水質に着目した浄化槽の環境負荷削減効果のLCA解析』など18課題の研究発表も行われた。

この中で、今回特に目を引いたのが『撮像素子による目視点検項目の数値化・モニタリングに関する研究』と『浄化槽内の遠隔長期観測システムの開発と槽内状況の把握への応用』で、カメラレンズ部分へのエアーク吹きつけによる発砲・水滴対策には、ほとんどの参加者がその発想を讃えていた。今はまだ開発の初期段階ではあるものの、近い将来これらの装置が実用化されるようになり、浄化槽の維持管理は大きく変化することが予想できた。

その後は、午後6時から懇親会が開かれ、多数の来賓が出席したほか、国会からも多くの議員が駆けつけた。

また、2日目は、浄化槽行政担当者研究会と浄化槽検査員研究会が開かれた。午前は共通する題材として浄化槽や水環境に関する最新の施策等について報告があり、午後は、会場を分け、行政は、環境省の新規事業や生活排水処理に関する先進事例など、また検査機関は、法定検査受検拒否の実態と受検率向上のための取り組みなどそれぞれに向けた情報提供があり、午後3時に閉会した。

## 29年度第2回 浄化槽技術講習会を開催

県環境技術センターは、第2回浄化槽技術講習会を、平成29年10月27日(金)アスティとくしまにおいて開催した。

この講習会は、浄化槽関連業務に従事する方々の技術力向上を目的として実施しているものであり、センター主催で定期的に開催している。

今回の講習会では従来の講習会とは趣向を変えて、実際に浄化槽業務に携わっている会員事業所の技術者が講師となり講習を実施する形式を取り入れた。

当日のプログラムとしては、1時限目、「中・大型施設における失敗と対応の実例」～教訓から得た管理技術～と題して、トーヨー化工(株)中野福生氏が講師を務め、続く2時限目には、「浄化槽は何故壊れるのか?」と題して、豊栄設備工業(株)武田尚文氏が講師となり、それぞれが得意とする専門分野の講習を行った。

1・2時限目ともに、現場を担当する技術者の実体験を基に、具体的な事例紹介等を交えた講習で、受講生からは分かり易い講習であったとの感想が寄せられた。

3・4時限目は、浄化槽メーカーから技術者の方を

招いての講習が行われた。

3時限目は、アムズ(株)技術推進部長の足立清和氏による、「アムズCXN2型浄化槽の維持管理のポイントについて」の講習が行われ、また4時限目には、ニッコー(株)品質保証部長の手取屋和夫氏による、「ニッコー浄化王NEXT型浄化槽の維持管理のポイントについて」の講習が行われた。

メーカー講習では、開発技術者ならではの、詳しい内部構造の解説と、それに伴う維持管理のポイントについて専門的な講習がなされ、受講生は熱心に講習に聞き入っていた。

また講習終了後も、個別に熱心に質問する受講者の姿も見受けられ、実り多い講習会となった。

なお次回は、平成30年1月26日(金)開催で、内容としては、「多角的視点に立った維持管理のポイント(講師:(公社)宮城県生活環境事業協会・法定検査センター元所長)および「浄化槽に係る業務の安全衛生上の注意事項について(講師:保健専任講師)」を予定している。



## 29年度設備士試験 335名が合格 合格率35.6%で2.4%アップ

平成29年9月12日、公益財団法人日本環境整備教育センターは、7月9日に全国5ヶ所(宮城県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県)で開催した浄化槽設備士試験の結果を発表した。

それによると、本年度の受験申請者数は1,048人(昨年度1,095人)でそのうち940人(同990人)が受験し受験率は89.7%(同90.4%)であった。

合格者は335名(同329名)、合格率は35.6%で昨年度と比べ2.4%アップした。

### <試験会場別の合格者数は次のとおり>

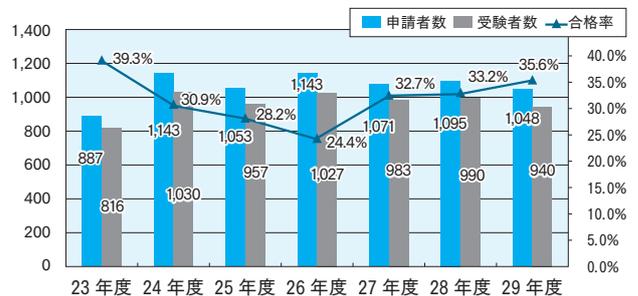
- 宮城会場……60名(昨年度51名)
- 東京会場……75名(〃 82名)
- 愛知会場……53名(〃 48名)
- 大阪会場……65名(〃 78名)
- 福岡会場……82名(〃 70名)計335名

浄化槽設備士試験は、昭和62年から実施されているが、本年度で31回目となる。

この間、受験者数は、平成10年度に4,223人で過去最高を記録したが、その後、徐々に受験者数が減少し、本年度(平成29年度)940人まで落ち込んだ。

また、合格者数は平成8年度の1,895人を最高に本年度は335名まで落ち込んでいる。

設備士試験結果の推移(過去7年間)



徳島県でも設備士数は下記のとおり(平成29年3月末現在)、若い世代が極端に少ない状況であり、10年後には設備士が不足するのは確実である。

一方、徳島県に於いて、汚水処理人口普及率は全国ワースト1を15年連続更新中であり、今後の人口減少化社会における汚水処理整備は、経済面、環境面においても即効性が有る、しかも地震にも強い、浄化槽が最も有効であると考えられる。よって、若い世代の資格者の養成は今後最優先課題として取り組まなければならない。

### ◇徳島県の浄化槽設備士数(年齢別資格者数)

- 20代…………… 1名(0.1%)
- 30代…………… 32名(4.3%)
- 40代…………… 109名(14.6%)
- 50代…………… 143名(19.1%)
- 60代以上…… 462名(61.8%)

平成29年3月末現在……合計747名

※詳細は第445号に掲載

## 浄化槽月間の 普及啓発活動を実施

10月1日は「浄化槽の日」となっていることから、徳島県では、10月を浄化槽月間と定めており、これに因んで、今年度は、鳴門市（東部保健福祉局）・阿南市（南部総合県民局）・美馬市・三好市（西部総合県民局）の4箇所の会場において、水・環境課職員が中心となり、保健福祉局・県民局職員、市町職員およびセンター職員が協力して、浄化槽の適正な維持管理普及啓発活動を行った。

実施概要としては、10月20日(金)ハローズ鳴門店（鳴門市）、24日(火)アピカ阿南店（阿南市）、26日(木)フレスポ阿波池田（三好市）・マルナカ脇町店（美馬市）の県内4会場で、いずれも街頭キャンペーン方式で実施し、延べ約1,100名の買い物客に、浄化槽の適正な維持管理パンフレットの配布と、環境保全に役立つ粗品を進呈するとともに、浄化槽による水環境保全と、それに併せて、みなし（単独）浄化槽設置者には、合併浄化槽への設置転換の呼びかけを行った。

また協力いただける来場者には、浄化槽に関するアンケートを実施し、アンケート回答時に解説を交えながら普及啓発を実施した。

26日に美馬市（マルナカ脇町店会場）で実施した啓発活動では、地元の徳島新聞社からも取材を受け、翌日の朝刊で啓発活動の様子が紹介された。

普及啓発活動の手応えとしては、一昔前から比べると、浄化槽設置者の維持管理に対する意識は変化してきており、保守点検・清掃・法定検査が必要であるこ

とは認識されていることが実感できるようになってきた。

しかしながら法定検査の結果を検証すると、無管理の浄化槽がいまだに存在することと、規定回数の保守点検・清掃が実施されていない施設も多くあることから、今後もセンターでは、県、市町村と連携し、色々な機会を捉えて普及啓発を継続していく予定である。



ハローズ鳴門店  
(鳴門市)



アピカ阿南店  
(阿南市)



フレスポ阿波池田  
(三好市)



## 消費者力講座

### 「楽しく学ぼう水環境！」

平成29年10月5日に脇町老人福祉センターで「楽しく学ぼう水環境！」と題した消費者力講座を開催した。



美馬地区消費生活センターより依頼を受け実施したもので、一般の方を対象に「私たちが使う水の量」や「浄化槽の仕組み」、「私たちにできること」など基本的な事をわかりやすく解説した。さらに身近な污水处理状況について、『污水处理人口普及率』に触れ、美馬市の半数以上の世帯が生活排水が未処理であることなどを説明した。また、興味を損なわずに講座を受講した

だくために水の浄化実験を準備し、水質浄化の大切さに気づいてもらう時間を設けた。

最後に、家庭で使えるエコ工作として、七色に光るペットボトルライトを製作し、全員で点灯後、和やかな雰囲気の中水環境保全に関する講座を終了した。

予定では定員30名であったが、追加の申し込みがあるなど、講師サイドとしてもとてもやりがいのある一日であった。開催前には、申し込みいただいた方は年配の方が多かったため1時間30分の講座は長すぎる心配があったが、アンケート結果にも「污水处理の仕組みが良く分かった」、「生ゴミは庭に埋めることを実践してみる」、「とても楽しい講座であった」など好評であったので安心したところである。

なお、講座の様子はテレビ阿波(株)により撮影されており、ケーブルTVで放送される。今回は講師の山畑検査員が最後に単独インタビューを受けるなど、水環境保全のさらなるPRができた良い機会になった。これからも、様々な場所へ出かけて水環境保全の大切さを伝えるべく、根強く活動を続けてゆくつもりである。

# あすたむらんどでサイエンスフェア

平成29年10月6、7日の2日間、「あすたむらんど徳島」でサイエンスフェアが開催され、みずすまし隊の職員が参加した。

サイエンスフェアは、毎年参加しているイベントで、みずすまし隊は、子ども科学館で催される「おもしろ博士の実験室」に出展している。

今年は、使い捨てのプラスチック容器を使ったプラバンのストラップ作りを行った。通常のプラバンでは、専用のプラスチック板を用いて行うが、今回は使い捨てのプラスチック容器のお弁当のフタを用いて行い、エコ工作としての面を取り入れた。

参加した子供たちの中には、家庭や学校でプラバン遊びをしたことがある子どもも多く、プラスチック容器に好きな絵を書き切り抜いた後、オーブントースターで



50秒程熱すると、みるみるうちに縮んで、小さく厚みのあるアクセサリに変身させ、オリジナルのストラッ

プを完成させていた。また、一緒に来ていたお母さんたちは、普段捨ててしまっているプラスチック容器でもプラバン遊びができることに驚いていた人も多く、エコ工作としての面もアピールすることが出来た。

今回のイベントも二日間を通して、300人以上の来場者があり、大盛況であった。

これからも、こういった活動を通して、子供たちが楽しく学べる「家庭でできるエコ工作」など、環境について考える機会を提供していきたい。

## 水質計量便り



〜『<sup>みみ</sup>美水ちゃん』

新種発見される!〜



とても愛らしい姿で人気の当センター公式キャラクター『<sup>みみ</sup>美水ちゃん』は、クリオネをモデルに誕生しました。

そのクリオネの新種が、富山湾の深海で発見されたそうです。ちょうど昨年、1世紀ぶりに4種目の新種が発見された話題になりましたが、今回5種目が相次ぎ発見されたこととなります。すごいですね(\*^\_^\*)。

ちなみに、クリオネは天使や妖精のような姿からとても人気がありますが、実は「ハダカカメガイ科ハダカカメガイ族」の仲間です。

さて、発見された新種のクリオネですが、他の4種と遺伝子が異なるそうです。体長も0.3〜3mmで、大きくても5mm程と小さく、細かな多数の毛が集まった「繊毛帯」だけで泳ぐ特徴があります。ただし成長すると、他のクリオネと同様に羽のような「翼足」で移動するそうです。

また、通常クリオネの仲間は「氷の妖精」と異名を持つように、冷たい水に生息する為、日本周辺では北海道のオホーツク海にしか生息していないと考えられてきました。ところが、今回の発見は富山湾と言うことで北半球で最南となり、この新種のクリオネは日本海固有種である可能性が高いと言われています。

そのほか注目する点は、新種のクリオネはかなり生息数が多い事と、餌である「ミジンウキマイマイ」という貝の一種が、海水の酸性化に弱いことから、このクリオネの生息状況を調べることで、富山湾の海の酸性化について分析できると考えられていることです。海の酸性化は、増えた二酸化炭素が海に溶け込むことが原因です。言い換えれば、地球温暖化も二酸化炭素の増加に起因することから、クリオネは温暖化の指標になると言えますね。「<sup>みみ</sup>美水ちゃん」地球温暖化分野でも活躍です!(^^)!

by koizumi

## 事務局だより

### 法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

#### ○11条検査

日程：平成29年12月13日～平成30年1月12日  
地区：徳島市・藍住町・北島町・石井町・上板町・神山町・佐那河内村

#### ○7条検査

日程：平成29年12月13日～平成30年1月12日  
地区：徳島市

#### ○那賀町検査(らくらくあんしん協議会)

日程：平成29年12月13日～平成30年1月12日  
地区：那賀町全域

#### ○神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)

日程：平成29年12月13日～平成30年1月12日  
地区：神山町全域

